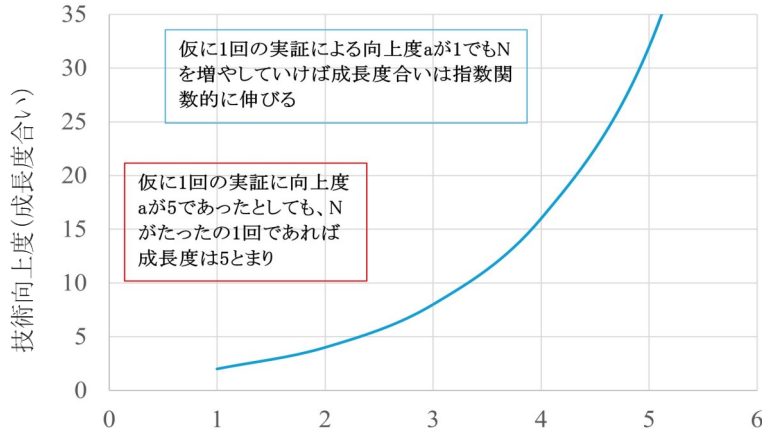


成長(技術向上)の度合い

$G=(1+a)^N$ N=回数を増やしていこう！(つづき)

技術向上度と実証頻度Nの関係



こちらに示すグラフで比較すると一目瞭然です。実証を通じて、次に結びつく失敗を積極的に経験している。これが、イノベーションを生み

出す上での大きな差だと感じます。もちろん、実証には多くのリソース(人員、費用)が必要となります。これを支える資金力や、多様な人材が米国は豊富であることも、決定的な差であると考えます。

昨今は、IT技術の発達によってコンピュータによるシミュレーション技術も発達しているので、模擬的にNの回数を増やすことも可能になっています。これはIT・デジタル技術の進歩による恩恵です。Nを増やしていくこと、それに伴う失敗を断じることなく、失敗から学ぶ姿勢といったものを、次世代の日本を担う子供たちに、初等教育のレベルから伝えていくことが私は遠回りなように見えて、日本復活に向けた一番の近道のように思います。

成熟した私達、大人の社会でも、この姿勢を学ぶことは決して遅くはありません。米国のスタートアップのエコシステム(生態系)に自ら入り込んで、大企業の文化を変え、新しい風を巻き起こし、イノベーションを創出することが、現在、私がこのヒューストンで取り組んでいる仕事であり、とてもやりがいのあるミッションなのです。

ヒューストンから飛び立つ巨大ロケットStarshipを私はこれからも応援したいと思います。そして、挑戦の結果、ロケットの空中爆発が万が一起こっても、その失敗を同じエンジニアの立場としてはとても悔しいと思う一方で、どこか羨ましいと感じるに違いありません。なぜなら、彼らはそこから多くのことを学んで更に大きく成長できるからです。

(米国三菱重工業 三原与周)

駐妻のヒューストン日記

第235回 増村光恵さん



2013年からミシガン州へ夫の駐在に帯同し、その後2021年にヒューストンへ移動となりました。アメリカ滞在は計11年。アメリカで生まれ育った娘たちは、あっという間に10歳と7歳になりました。

さて、駐妻という言葉を知ると、みなさんはどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。私はアメリカに来るまでは、駐妻という言葉にキラキラした華やかなイメージを持っていました。しかし、実際に自分自身が駐妻になってみると、現実とは想像していたキラキラした世界ばかりではないことがわかりました。ここでは駐妻生活11年間を振り返って、辛かったこと、大変だったこと、またアメリカならではの貴重な経験をいくつか書きたいと思います。

【失業】

夫のアメリカ駐在に帯同することは、私にとっては仕事を失うことでもありました。駐妻になったと言えれば聞こえがいいのですが、言い方を変えれば無職です。日本でのやりがいのある大好きだった仕事と仕事仲間を失い、渡米後しばらくは大きな喪失感を味わうこととなりました。夫に養ってもらおうことへの後ろめたさ、孤独感や不安感を抱いて、自分に自信を持ってない時期もありました。最初は辛いと感じることが多かったアメリカ生活ですが、家族や友人に支えられながら、毎日が少しずつ楽しく充実したものへと変わっていききました。

【日本との違い】

日本での常識はアメリカでの常識ではありませんでした。業者の方が約束の時間に来てくれなかったり、ネットで注文したものが届かなかったり。最初はショックでしたが、ネットで注文したものがちゃんと届いたときは、むしろ嬉しく感じられるようになりました。今でも物事がスムーズに進まないことに困惑することもあります、小さなことでうま

くいたり、理解しあえたりしたとき、感謝できるようになりました。

【バイリンガルへの険しい道】

アメリカで生まれ育った子供は自然にバイリンガルになれるのでは、という淡い期待を抱いていましたが、わが家の娘たちが自然にバイリンガルになることはありませんでした。子供が日本語と英語を同時に習得していくことの難しさを実感しました。娘たちにはネイティブに近いレベルの英語力をつけさせたい一方で、日本に本帰国した時のことを考えると、日本語もしっかり身につけさせたい。焦る気持ちが募るばかりで、なかなか思うようにいかない二言語同時習得に悩み、試行錯誤を繰り返す日々が続きました。さらに娘たちが現地校に通い始めると、日本語を使い学ぶことへの興味、関心、モチベーションを保つのが、家庭だけでは難しく、限界を感じるようになりました。ヒューストンに来てからは、日本語補習校での先生方の熱心で手厚い授業と三水会センター図書館にとっても助けられています。

子供が複数の言語を同時に学び続けることは、本人にとってもサポートする親にとっても容易なことではありません。しかし、多様な人々が集まるここアメリカで、子供たちはただ英語と日本語を習得するだけでなく、国際的な広い視野、柔軟性や異文化への理解を身につけていると感じます。

【住めば都】

早く日本に帰りたいと思った日もありましたが、住めば都とはよく言ったもので、いつの間にか今住んでいる場所が、心地のよい場所、大好きな場所になりました。広々としてきれいな公園と、どこまでも続く青い空。今思えば、日本で働いていた時、ゆっくり空を見上げる余裕はありませんでした。アメリカ生活の中で大変だったことも沢山ありましたが、日本では経験することができない貴重な機会と時間を与えてもらったことに感謝し、残された駐妻生活1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

駐夫日記、駐在ファミリー日記も募集中!!